

◇編集後記◇

『とい 2013』にも、おなじみのカルテットの登場となった◇心揺さぶる松崎の、透徹したヴィオロンには、友を失った悲しみと友の仕事に対する敬意があふれている◆期せずして、楠瀬のフィドルも「生と死」というモチーフを、しかし高揚感を持って、評釈することとなった◆このところ、古代を逍遙していた松尾の歴史探訪のヴィオラは、明治大正昭和の警察を淡々と展望する◆グローバル人材を求める声が、かまびすしい時代となったが、和田のやすらぎのチェロは、真の国際人発見のよろこびを奏でる◇遅ればせながら、33号を発表できるよろこびに勝るものはない。ねがわくば、『とい』に、にぎわいあらんことを。<<>

編集・発行：グループ帆（代表 / 松崎 一平）

〒930-8555 富山市五福 3190

富山大学人文学部内人間学（松崎）研究室